



2020年4月2日

厚生労働大臣 加藤勝信 殿
厚労省雇用環境・均等局長 殿

新型コロナウイルス感染症による小学校休業等対応支援金に関する要望

SWASH (Sex Work And Sexual Health)

代表 要 友紀子

私たちは、性風俗で働く人々の当事者団体です。これまで、性産業で働く人々の声を聞き、そのニーズや実態の調査をすると共に、当事者たちの居場所作りや相談事業なども実施してまいりました。

これまでの活動を踏まえ、現在、厚生労働省が行なっている「新型コロナウイルス感染症による小学校休業等対応支援金」の不支給要件に関しまして、風俗従事者を含むすべての親およびその子どもたちの生存権を守る為のより有用な施策を実施いただくために、以下、要望いたします。

記

1、風俗従事者を、支援金の支給対象から除外しないでください。

私たちは風俗従事者とその子どもたちが、他の労働者とその子どもたちと同じように、生存権が守られることを望んでいます。風俗業に従事しているか否かという職業を支援対象の指標とせず、その人が困っているかどうかで判断するようにして下さい。

風俗は日払いで、今回のような事態によって収入が激減しやすい仕事です。また、社会的排除を受けやすい、困難を抱える親たちの扶養の躰きや困窮を軽減するためには、いま子育てをしながら風俗で働いている人々が求める支援を国が提供することは不可欠であると考えます。

2、厚労省として、支援金の不支給要件の見直しと撤回について周知徹底して下さい。

今回の支援金で支援対象の範囲が予め決められてしまった結果、風俗で働く人々への差別が助長されたことは否めません。風俗で働くことそのものを問題視したことで、支援に繋がるべき人が支援を求めにくくなる事態も懸念されます。以上のことから、不支給要件の見直し・撤回の周知にも努めてくださいますようお願い申し上げます。

SWASHは、性風俗などで働くセックスワーカーが、
「仕事をやっている限りは健康かつ安全に、また、辞めたい時にも健康かつ安全に辞められる」

状況を目指して活動するグループで、1999年に設立しました。

ここでの「健康・安全」とは、身体的・精神的・社会的の三つの要素を含みます。

メンバーは、現役/元セックスワーカーとそのサポーターで構成されています。

これまでの活動として、HIV/性感染症予防啓発やアウトリーチ、ホットライン、
労働実態調査、風俗店オーナー研修のほか、海外のセックスワーカーグループとの
ネットワーク構築や国際会議参加など、幅広い活動があります。

公的機関との協働実績

【調査研究】

●厚生科学研究費補助金先端的厚生科学研究分野エイズ対策研究「日本在住のCSWにおけるHIV、STD関連知識・行動及び予防・支援対策の開発に関する研究」（班長・池上千寿子、2000～2002年度）

●UNODC（国連麻薬犯罪事務所）委託調査「日本の性産業で働く外国人女性のHIVと人身売買に関する調査」（2006～2007年度）

●厚生労働科学研究費補助金エイズ対策事業「個別施策層（とくに性風俗に係る人々・移住労働者）のHIV感染予防対策とその介入効果に関する研究」（研究代表者・東優子、2009～2010年度）

【委託事業】

●東京都エイズ啓発拠点事業「性風俗産業従業員向け予防啓発」（2003年～継続中）

●大阪府地域再生医療基金「HIV・エイズの正しい知識の普及啓発及びまん延防止事業（個別施策層への普及啓発）」（2011～2013年度）

【研修講師実績】

女性のためのシェルターHELP、NPO法人レジリエンス、大阪の女性支援施設職員のネットワークM&C、札幌弁護士会、大阪弁護士会、東京弁護士会、福島県いわき市、JICA、（財）東京都結核予防会、エイズ予防財団、米大使館、札幌防犯健全協力会ほか多数。

2017年4月、11月
東京・大阪開催
セックスワーカーのための
アドボケーター
養成講座
(約100名の支援者・
専門家が参加)



2018年9月20日 発売
セックスワーク・スタディーズ
当事者視点で考える性と労働
(SWASH編、日本評論社)

アムネスティ・
インターナショナル推薦

